

# 横浜市立並木第一小学校 学校評価報告書(平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教員が授業研究を通して授業力を高め、児童に「分かる」「できる」喜びを与える授業を行っています。</li> <li>○学校・地域の特色を生かし、小中9年間を見据えた教育課程を実施します。</li> <li>○学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、基礎学力の向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めることができた。1対1での指導をする必要とする児童が多いため、十分に指導が行き届かない面もあった。今後も引き続き行っていきたい。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	A B C D
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼保小中の連携交流・校内異学年交流や道徳の時間等の充実から、規範意識や相手を思いやる心、人権を尊重する心と態度を育成します。また、豊かな心育につながる活動に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流場面では、上級生がリードしながら、一緒に楽しむ場面が多く見られ、交流するよさを感じることができた。</li> <li>○「いきいきタイム」を楽しく朝学校に来る児童が多く、朝からしっかりと体を動かすことができた。</li> <li>○「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と体力の向上、食育を図ります。</li> </ul>	A B C D
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員で、生涯を通じて健康な生活を営む心と体を育てます。</li> <li>・「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図ります。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と体力の向上、食育を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」は、進んで参加し、元気を取り組んでいる。</li> <li>○「いきいきタイム」を楽しく朝学校に来る児童が多く、朝からしっかりと体を動かすことができた。</li> <li>○「早寝・早起き・朝ごはん」を、今後も家庭に協力をなげかけていく。</li> </ul>	A B C D
4 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援コーディネーターを中心に校内支援体制を整備し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立てて、児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めます。</li> <li>○個別支援学級や国際教室について交流を通じて理解を深め、互いに尊重し、共に生きる姿勢を育みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めることができた。1対1での指導をする必要とする児童が多いため、十分に指導が行き届かない面もあった。今後も引き続き行っていきたい。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	A B C D
5 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童支援専任を中心に、児童一人ひとりに寄り添った校内支援体制の構築を図ります。また、関係諸機関との連携を図り、保護者と協力した指導を進めます。</li> <li>○児童指導に関する情報の共有化、規範意識を高く指導の取組、人間関係づくりの指導の工夫を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校は児童指導専任がいるため安心感がある。</li> <li>○南部療育センターの指導を受けたことで、子どもの見方が変わった。違う立場の方の話を聞いたことは勉強になった。</li> <li>○問題行動が起こった時には、担任だけでなく学年・ブロック・7学年等、多くの職員が指導に関わり、組織的に取り組むことができています。子どもたちにとっても、担任にとっても安心感がある。</li> </ul>	A B C D
6 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校づくり教育懇話会や関連機関、家庭などの双方からの情報交換や交流等を通して児童の健全育成への共通理解と共通実践を図る。</li> <li>○一日学校公開を含めた授業参観・懇談会を各シーズン2回開催する。</li> <li>○学習ボランティアとして保護者や地域の方の協力をいただき、児童の安心感や達成感、学習意欲を高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新1年プロジェクトのボランティアや普通遊びでは、地域との協力を得てよい刺激を受け、楽しく取り組むことができた。</li> <li>○学習ボランティアやアシスタントティーチャーの協力が大変ありがたい。ボランティアの読み聞かせなどにより本が大好きになった。</li> <li>○高校生による夏の学習ボランティアは大変よかったです。子どもたちの意欲が高まりました。</li> </ul>	A B C D
7 人材育成組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験層が学校運営の視点をもって職務遂行するよう、管理職、主幹教諭が指導・助言を行います。</li> <li>○全職員が一丸となって学校体制を維持・発展できるように組織的に対応していくシステムづくりを進め、積極的に授業交換等を行い、指導力の高め合いを図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者研修を通しての授業後の検討会で、管理職、主幹教諭からの指導・助言が有意義だった。</li> <li>○助言から、たくさんの方の指導の仕方を学ぶことにより、自分一人の指導では児童の見えなかった部分が見えるようになった。</li> <li>○学年での話し合いが十分にできているため、共通理解を持って指導することができた。</li> </ul>	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度より2中3小で指導の重点の一つとして取り上げた「聴く力」については、今後も継続的に指導に取り組んでいく。</li> <li>○小中合同研修会の話し合いは、「聴く力」について焦点化されていたため、話し合いが深まった。</li> <li>○小中互いの授業を参観し合い、研究討議を重ねることで、児童・生徒の実態、教員の接し方や指導法などについて理解を深めることができた。</li> <li>○実際に授業や部活動を体験することで、児童の期待が高まり、安心して中学校へ行くことができたと感じた。</li> </ul>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつは定着してきていると感じる。まだ、自分からあいさつできない子もいるが、大人が繰り返し手本を示していきたい。</li> <li>○帰宅後の過ごし方や門限については、各家庭でずれがあるので、同じ歩調で指導していきたい。</li> <li>○「うきうきブック」の読み聞かせをしているが、子どもたちが熱心に聞いてくれるとよい状況だと感じている。</li> </ul>
評価結果に対する学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・保護者・職員のアンケートを通して成果や課題についてふりかえり、改善を図っている。概ねよい成果に結びついてはいるが、課題も残っているので、来年度も手立てを工夫して改善していく。</li> <li>一人ひとりが楽しく過ごせる学校づくりにこれからも取り組んでいきたい。</li> </ul>

学校経営中期目標達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中期目標は、概ね達成できている。「チーム並一」として情報を共有し、職員が協力し合って教育活動に取り組む姿勢は大切にされているので、これからも一層高めていきたい。</li> </ul>
--------------	---

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教員が授業研究を通して授業力を高め、児童に「分かる」「できる」喜びを与える授業を行っています。</li> <li>○学校・地域の特色を生かし、小中9年間を見据えた教育課程を実施します。</li> <li>○学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、基礎学力の向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進める努力を行っている。算数教室に接続している児童に対して、個別の支援計画を作成し実施することができた。</li> <li>○個別支援学級の児童を学年・学年で受け入れることができています。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	A B C D
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼保小中の連携交流・校内異学年交流や道徳の時間等の充実から、規範意識や相手を思いやる心、人権を尊重する心と態度を育成します。また、豊かな心育につながる活動に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流場面では、上級生がリードしながら一緒に楽しむ場面が多く見られ、下級生は上級生のやさしさになれるなど交流するよさを感じることができた。</li> <li>○ペア学年での取組では、年下の友だちへの接し方を学ぶことができた。運動会や集会、遠足などの活動を通して、信頼感や親睦さも増している。</li> <li>○幼保小連携推進地区として研究を重ねている。今後もふれあいの場や機会を通して豊かな心育につなげる。</li> </ul>	A B C D
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員で、生涯を通じて健康な生活を営む心と体を育てます。</li> <li>・「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図ります。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と体力の向上、食育を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」は、進んで参加し、元気を取り組んでいる。学校生活のリズムになってきている。</li> <li>○「いきいきタイム」では、委員会児童が計画した活動も取り入れながら、朝からしっかりと体を動かすことができるようになっている。</li> <li>○「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、今後も家庭に協力をなげかけていく。</li> </ul>	A B C D
4 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援コーディネーターを中心に校内支援体制を整備し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立てて、児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めます。</li> <li>○個別支援学級の児童を学年・学年で受け入れることができています。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進める努力を行っている。算数教室に接続している児童に対して、個別の支援計画を作成し実施することができた。</li> <li>○個別支援学級の児童を学年・学年で受け入れることができています。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	A B C D
5 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童支援専任を中心に、児童一人ひとりに寄り添った校内支援体制の構築を図ります。また、関係諸機関との連携を図り、保護者と協力した指導を進めます。</li> <li>○児童指導に関する情報の共有化、規範意識を高く指導の取組、人間関係づくりの指導の工夫を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童指導専任による堅実で確かな支援体制が構築され大きな安心感がある。</li> <li>○引き続き南部療育センターの指導を受けたことで、児童理解につながっている。</li> <li>○問題行動が起こった時には、複数対応を心がけ、組織的に取り組むことができています。子どもたちにとっても担任にとっても安心感がある。並一スタンダードをもとに共通理解や指導ができています。</li> </ul>	A B C D
6 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校づくり教育懇話会や関連機関、家庭などの双方からの情報交換や交流等を通して児童の健全育成への共通理解と共通実践を図る。</li> <li>○一日学校公開を含めた授業参観・懇談会を各シーズン2回開催する。</li> <li>○学習ボランティアとして保護者や地域の方の協力をいただき、児童の安心感や達成感、学習意欲を高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新1年プロジェクトのボランティアや普通遊びでは、引き続き地域の協力を得て、楽しく取り組むことができた。毎年の定例となっている。</li> <li>○学習ボランティアやアシスタントティーチャーの協力が大変ありがたい。ボランティアの読み聞かせや図書室の整備など本に親しむ環境が整えられ、子どもたちの読書への意欲が高められている。本好きの子がほとんどである。</li> </ul>	A B C D
7 人材育成組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験層が学校運営の視点をもって職務遂行するよう、管理職、主幹教諭が指導・助言を行います。</li> <li>○全職員が一丸となって学校体制を維持・発展できるように組織的に対応していくシステムづくりを進め、積極的に授業交換等を行い、指導力の高め合いを図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者対応や児童指導について、管理職・主幹教諭からの指導・助言が有意義だった。</li> <li>○助言から、多くの指導の仕方を学ぶことにより、児童理解や授業力、指導力の向上につながった。</li> <li>○重点研究を中心に学年・学年で授業づくりを互いに見合うことができ、高めあうことができた。</li> <li>○学年やブロック、ペア学年等で教育活動を取り組むことで、共通理解を持って指導することができた。</li> </ul>	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2中3小で指導の重点の一つとして取り上げた「聴く力」については、今後も継続的に指導に取り組んでいく。</li> <li>○小中合同研修会の話し合いは、引き続き「聴く力」について焦点化して考え合った。</li> <li>○小中互いの授業を参観し合い、研究討議を重ねることで、児童・生徒の実態、教員の接し方や指導法などについて理解を深めることができた。しかし、同教科・同メンバーでの話し合いが続いていることから課題も残った。</li> <li>○交流を通して、各学校のスタンダードを理解し、小中の共通理解につながった。</li> <li>○実際に授業や部活動を体験することで、児童の期待が高まり、安心して中学校へ行くことができている。</li> </ul>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつは定着してきていると感じるが、まだ自分からあいさつできない子もいるので、引き続き、大人が手本を示していきたい。今後は、更に人とのかわりの中で言葉遣いを考えるなどコミュニケーション力がつくよう指導していきたい。</li> <li>○下校時に通学路を散歩するなどの見回りをすることで子どもたちの安全を守りたい。</li> <li>○「うきうきブック」の読み聞かせをしているが、子どもたちが熱心に聞いてくれるとよい状況だと感じている。</li> </ul>
評価結果に対する学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・保護者・職員のアンケートを通して成果や課題についてふりかえり、改善を図っている。少しずつ成果に結びついてきている。児童の意識の向上や保護者の理解につながっている。課題については、来年度も手立てを工夫して改善していく。</li> <li>一人ひとりが楽しく過ごせる学校づくりにこれからも取り組んでいく。</li> </ul>

学校経営中期目標達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○円滑な人間関係をつくるためにも、重点研究の「話し合い活動の授業」や「幼保小中高異学年交流」を通して、コミュニケーション力などの育成を図ってきた。今後も様々な教育活動の中で、豊かな人間関係の育成や表現力育成に向けて努力していきたい。更に、児童理解や指導力を高めていきたい。</li> <li>○「チーム並一」として情報を共有し、職員が協力し合って教育活動に取り組む姿勢は大切にされているので、これからも一層高めていきたい。</li> </ul>
--------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教員が授業研究を通して授業力を高め、児童に「分かる」「できる」喜びを与える授業を行っています。</li> <li>○学校・地域の特色を生かし、小中9年間を見据えた教育課程を実施します。</li> <li>○学力・学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、基礎学力の向上を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めることができた。1対1での指導をする必要とする児童が多いため、十分に指導が行き届かない面もあった。今後も引き続き行っていきたい。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	A B C D
2 豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼保小中の連携交流・校内異学年交流や道徳の時間等の充実から、規範意識や相手を思いやる心、人権を尊重する心と態度を育成します。また、豊かな心育につながる活動に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流場面では、上級生は優しく下級生は頼しみや憧れの思いを持つことができた。</li> <li>○ペア学年交流では、上級生はリーダーとしての取り組みの場を持つことで活躍の場を広げることができた。</li> <li>○様々な交流(人と場)や道徳の時間などを通して、人権や規範意識など豊かな心育につながっている。</li> <li>○幼保小連携推進地区3年目として、来年度も多くのふれあいの場や機会を通してより深く心育を考えていく。</li> </ul>	A B C D
3 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員で、生涯を通じて健康な生活を営む心と体を育てます。</li> <li>・「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」を通して日常的に体力向上を図ります。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着と体力の向上、食育を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いきいきタイム」や「さわやかスポーツ」は、進んで参加し、元気を取り組んでいる。</li> <li>○「いきいきタイム」では、委員会児童が計画した活動も取り入れながら、朝からしっかりと体を動かすことができるようになっている。</li> <li>○「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、今後も家庭に協力をなげかけていく。</li> </ul>	A B C D
4 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援コーディネーターを中心に校内支援体制を整備し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立てて、児童一人ひとりのニーズに合わせた教育を進めます。</li> <li>○個別支援学級の児童を学年・学年で受け入れることができています。</li> <li>○今後も、南部療育センターによる学校コンサルテーションを実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童一人ひとりのニーズに合わせた教育活動を進めることができた。</li> <li>○個別支援学級の児童を学年・学年で受け入れ一緒に活動できた。</li> <li>○個別支援学級や国際教室について交流を通じて理解を深め、互いに尊重し、共に生きる姿勢を育みます。</li> </ul>	A B C D
5 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童支援専任を中心に、児童一人ひとりに寄り添った校内支援体制の構築を図ります。また、関係諸機関との連携を図り、保護者と協力した指導を進めます。</li> <li>○児童指導に関する情報の共有化、規範意識を高く指導の取組、人間関係づくりの指導の工夫を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童支援専任を中心に学年・学校の枠を超えて、児童一人ひとりのニーズに合わせた支援を行っている。</li> <li>○並一スタンダードをもとに共通理解や指導ができています。</li> <li>○児童指導に関する情報の共有化、規範意識を高く指導の取組、人間関係づくりの指導の工夫を図ります。</li> <li>○組織的に児童対応を行っているため、児童にとっても担任にとっても安心感がある。引き続き複数での児童対応を心がけていく。</li> </ul>	A B C D
6 地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校づくり教育懇話会や関連機関、家庭などの双方からの情報交換や交流等を通して児童の健全育成への共通理解と共通実践を図る。</li> <li>○一日学校公開を含めた授業参観・懇談会を各シーズン2回開催する。</li> <li>○学習ボランティアとして保護者や地域の方の協力をいただき、児童の安心感や達成感、学習意欲を高めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新1年プロジェクトや普通遊びのボランティア活動は、地域の協力を得て、楽しく取り組むことができています。引き続き協力を得たい。</li> <li>○学習ボランティアやアシスタントティーチャーの協力がありがたい。読み聞かせや学習の見守り、校舎内外の整備など、子どもたちの学習への意欲が高められている。</li> <li>○新1年プロジェクトや普通遊びのボランティア活動は、地域の協力が毎年定例になっているので、楽しく取り組むことができています。引き続き協力を得たい。</li> </ul>	A B C D
7 人材育成組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験層が学校運営の視点をもって職務遂行するよう、管理職、主幹教諭が指導・助言を行います。</li> <li>○全職員が一丸となって学校体制を維持・発展できるように組織的に対応していくシステムづくりを進め、積極的に授業交換等を行い、指導力の高め合いを図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経験層の職員と経験の浅い職員が互いの特性を生かし補い合っているため、楽しく協力し職員間も良好である。</li> <li>○学校体制を維持・発展できるように組織的に対応していくシステムができているので、いろいろな場面で相談・検討することができている。</li> <li>○多忙なため、互いの授業を見合う機会を取りづらいため、今後の課題である。</li> </ul>	A B C D

小中一貫教育推進ブロック内相互評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2中3小の取り組みである「聴く力」の育成・あいさつ活動の推進については、各校で工夫されてきた。特にあいさつの重要性について意識の向上が見られた。今後も地域ぐるみで指導に取り組んでいく。</li> <li>○小中互いの授業参観・研究討議を重ねてきた昨年度までの教科・領域毎の研究討議から、学年別グループ討議にしたことで、同教科同メンバーから新しいメンバーによる話し合いができた。中学校教員のグループ分けに課題が残った。</li> <li>○各学校のスタンダードを伝え合うことで、共通理解を図った。</li> <li>○授業や部活動を体験することで、安心感や期待につながり、好評であった。</li> </ul>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつは定着してきている。学校に行く機会が増えたと顔を覚えてくれるためか、進んであいさつしてくれたり声をかけてくれたりして温かい気持ちになった。引き続き、大人からも声をかけていきたい。今後は、更に人とのかわりの中で言葉遣いを考えるなどコミュニケーション力がつくよう望む。</li> <li>○「うきうきブック」や「お話しパレット」の読み聞かせでは、子どもたちが熱心に聞き楽しみにしてくれている。読書好きが増えた。</li> <li>○「早寝・早起き・朝ごはん」や「遅刻なし」の取り組みに対しては、家庭に呼びかけていく必要がある。</li> <li>○遊び場所がなかったり規制が多かったりかわいそうに感じる。各種ある施設の活用法を考える必要がある。</li> </ul>
評価結果に対する学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・保護者・職員のアンケートを通して成果や課題についてふりかえり、改善を図ってきた。児童の意識の向上や保護者の理解につながり、成果につながった。</li> <li>○課題については、手立てを工夫して改善していく。</li> <li>一人ひとりが楽しく過ごせる学校づくりにこれからも取り組んでいく。</li> </ul>

学校経営中期目標達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○円滑な人間関係をつくるためにも、今年度も引き続き、重点研究の「話し合い活動の授業」や「幼保小中高異学年交流」を通して、コミュニケーション力などの育成を図ってきた。今後も豊かな人間関係の育成や表現力育成に向けて努力していく。</li> <li>○児童指導や授業力などの教育技術は日々努力の必要がある。今後は、児童理解と共に学力向上に向けて指導力の向上を目指す。</li> <li>○今後も「チーム並一」として、職員が協力し合って教育活動に取り組む。</li> </ul>
--------------	--

※ 当該年度の達成状況: A・・・十分達成 B・・・概ね達成 C・・・努力必要 D・・・改善必要